

## 平成20年度行政視察報告書 (平成クラブ)

日時 平成21年2月2日～4日

視察先 呉市・尾道市・たつの市

### 調査事項

#### 1、小中一貫教育の取り組みについて [呉市]

- 小中一貫教育の取り組みについて、呉市では平成12年度に隣接する1中学校・2小学校で開始し、19年度からは小中学校が隣接していない地域でも取り組みを進め、21年度には28すべての中学校校区での実施と、段階的、計画的にとりくみを進めている。
- 小中学校9年間の学年を、4・3・2として、小中学校の連動性を意識した取り組みである。
- 各中学校区の実情に応じた取り組みを進め、特色を生かしつつ推進しており、統合とは切り離して考えている。
- 小中学校の教員兼務辞令については出せるところは出している。
- 成果と課題について、検証をくり返しつつ、その事を生かされている。

以上説明を受けて感じた事は

- ①4・3・2区分として、中期(5～7学年)に注目して指導に力を入れ、一貫教育の意義として重要な部分であると感じた。
- ②教職員特に管理職の現状への課題意識、意識変革がポイントであると感じた。
- ③9年間のスパンの中で、計画的に継続性を持った指導は意義深いと思った。
- ④中学校28校全ての校区で取り組みが進められていることに感心するとともに、行政や教育現場の積極的な強い意欲を感じた。

※総括として、一貫教育の取り組みは、その必要性や意義について行政や学校現場が認識を深め、そのことについて保護者や地域と共有化することが最初の一步であり、今置かれている実情に即した手法で取り組む事が大切であるとともに、目的・目標を明確にしての取り組みが極めて重要であると思う。9年間の義務教育期間にあって、身に付けるべく学力と社会性を育む教育に大人がどう立ち向かうべきか、行政・学校・保護者・地域が、より一層連携を深め、一貫教育に前向きに取り組む事は、意義ある事と強く感じた。

#### 2、しまなみ交流館の運営状況について [尾道市]

- 平成11年に駅前再開発で完成、開館する。
- しまなみ交流館は施設は、地域にマッチした施設として多くの利用者が継続しており、芸術・文化の拠点施設として運営されている。

○運営は直営で、正職員三名、非常勤職員六名体制。

○運営費は、20年度予算で1億2千600万円で、使用料収入は約2、200万円、友の会は年会費2、000円。

以上説明を受けて感じた事は

①尾道を「歴史と文化の香る瀬戸内の十字路」と位置付け、その拠点施設としての交流館の存在意識が浸透している。

②ホールの構造がインパクトにまとめられており、舞台は広く各種施設も充実しており、市民のニーズにそって、身の丈にあった交流館として建設されたとの印象を持った。

③特に音響効果が好評で、ホールの年間利用率は70%以上を推移し、会議室利用率も90%を超えていて、市民の期待にうまくマッチしている印象を強く持った。

※総括として、この「しまなみ交流館」の利用率の高い要因のひとつには、尾道市民の芸術文化への意識の高さ、地域性、地域力を強く印象付けされました。そして、その尾道市民のニーズを原点としての運営に徹しておられる事に感心させられました。この種の施設は各地に存在していますが、この基本的な視点を見失うことなく運営することこそ、芸術文化意識の高揚に結びつくであるとの思いを強く持ちました。

尾道議会事務局のご配慮で、歴史的に面影を残す町並みを案内頂きましたが、こういった心配りにも、「歴史と文化の香る瀬戸内の十字路」のキャッチフレーズが単に言葉だけでなく、浸透していると印象付けられました。

### 3、行政改革の取り組み状況について[たつの市]

○浜田市と同じく17年10月1日に1市3町で合併し、人口87、000人のたつの市が、行政改革を今日迄どのように推進し、今後の計画をどう策定されているのか視察調査に伺いました。

○平成20年11月に行政改革「加速アクションプログラム」を策定、これはあくまでも案であって、常に行動計画の修正はあり得る。

○合併以降総合支所方式で推移してきたが、23年度に各支所は窓口体制のみとする計画であるとともに、部課数も2割削減の計画。

○イベント、祭り等類似事業は一本化を進める。

以上説明を受けて感じたことは

①浜田市と比較して財政状況が良く、行財政改革でなく行政改革として取り組みを推進されていたが、当然のことながら投資的事業費抑制の数値目標や地方債についても年次目標を定めてあった。

②直営の国民宿舎が3ヶ所あり、21年度には指定管理者に移行計画であった

が、このことについては遅い印象を持った。

③祭りなど類似行事の一本化は、より盛大に開催出来るとともに、開催地域に多くの市民が移動し、交流が深まって良い事だと感じた。

※総括として、行財政改革については、浜田市が一步進んでいる印象を持った。ただ、地方自治体の厳しさを増す行政運営にあつて、抜本的な改革はどの自治体にも共通するテーマであり、いくらか手法に違いがあつても、将来に向けた磐石な行財政基盤が不可欠であり、その決意のもとに改革を断行されようとする意欲は感じられ、このように共通する大きな課題に向けて自治体間がスピードを競う時を迎えているとの思いを強く持った。

以上 平成クラブの会派行政視察を関係資料を添えて報告致します。